

○「微生物農薬の登録申請において提出すべき資料について」（令和6年4月1日付け5消安第7650号農林水産省消費・安全局長通知）
一部改正案 新旧対照表

(下線の部分は改正部分)

改正後	改正前
<p>3 資料の作成方法</p> <p>(1) 試験方法及び資料の収集方法について</p> <p>①～③ (略)</p> <p>④ 2に規定する資料について、文献、書籍等によって情報を収集する場合は、<u>別紙3に示す手順に従って検索するものとする。</u></p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>(5) 実験動物の取扱い等について</p> <p>動物を用いた実験を実施するに<u>当たっては</u>、動物愛護等の観点から、動物の愛護及び管理に関する法律(昭和48年法律第105号)及び実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(平成18年環境省告示第88号)のほか、動物愛護に係る国際的な規制、動向等を踏まえ、実験動物の飼育管理、実験操作、処分方法等に十分に注意を払わなければならない。</p> <p>(6) (略)</p> <p>別紙1 提出すべき資料の項目及び提出すべき条件</p>	<p>3 資料の作成方法</p> <p>(1) 試験方法及び資料の収集方法について</p> <p>①～③ (略)</p> <p>④ 2に規定する資料について、文献、書籍等によって情報を収集する場合は、<u>「公表文献の収集、選択等のためのガイドライン(令和3年9月22日付け農業資材審議会農薬分科会決定、令和5年7月27日付け一部改正)」のIVの1に規定するデータベースを用いて検索するものとする。</u></p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>(5) 実験動物の取扱い等について</p> <p>動物を用いた実験を実施するに<u>あたっては</u>、動物愛護等の観点から、動物の愛護及び管理に関する法律(昭和48年法律第105号)及び実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(平成18年環境省告示第88号)のほか、動物愛護に係る国際的な規制、動向等を踏まえ、実験動物の飼育管理、実験操作、処分方法等に十分に注意を払わなければならない。</p> <p>(6) (略)</p> <p>別紙1 提出すべき資料の項目及び提出すべき条件</p>

要求項目	提出の要否		条件付き要求 (△) の内容等
	微生物の種類		
	ウイルス	その他の 微生物	
(略)			
1～4 (略)			
5 人及び家畜(蜜蜂を除く。)に対する影響に関する試験成績等 (図1参照)			
(1)～(3) (略)			
(4) 単回経皮投与	△	△	単回経口投与試験の結果から、影響が認められた場合であって、有効成分が哺乳動物に対して経皮感染する微生物に近縁のものである場合は提出を要する。 なお、哺乳動物に対して経皮感染する微生物の例は、 <u>次のとおり</u> である。

要求項目	提出の要否		条件付き要求 (△) の内容等
	微生物の種類		
	ウイルス	その他の 微生物	
(略)			
1～4 (略)			
5 人及び家畜(蜜蜂を除く。)に対する影響に関する試験成績等 (図1参照)			
(1)～(3) (略)			
(4) 単回経皮投与	△	△	単回経口投与試験の結果から、影響が認められた場合であって、有効成分が哺乳動物に対して経皮感染する微生物に近縁のものである場合は提出を要する。 なお、哺乳動物に対して経皮感染する微生物の例は、 <u>次</u> <u>のとおり</u> である。

			<i>Bacillus anthracis</i> 、 <i>Leptospira interrogans</i> 、皮膚糸状菌等
(5)～(7) (略)			
(8) 細胞培養	△	×	有効成分がバキュロウイルス又はバクテリオファージではない場合は、提出を要する。
(9)～(16) (略)			
【上記5の試験成績の提出を要しない場合】			
1 (略)			
2 微生物農薬を被験試料とする試験について 「化学品の分類及び表示に関する世界調和システム (GHS)」に示されている混合物の分類基準 (つなぎの原則、加成方式 (カットオフ値濃度限界)) によって、GHS 分類区分に分類できる場合は、上記の試験成績に代えて当該分類結果を提出することができる。この場合、 <u>6278 号局長通知別紙 1 別添 5 「ハザードに基づく評価法」</u> の規定を準用して利用する類似の混合物又は各成分の毒性データを提出すること。			
6～9 (略)			

			<i>Bacillus anthracis</i> 、 <i>Leptospira interrogans</i> 、皮膚糸状菌等
(5)～(7) (略)			
(8) 細胞培養	○	×	
(9)～(16) (略)			
【上記5の試験成績の提出を要しない場合】			
1 (略)			
2 微生物農薬を被験試料とする試験について 「化学品の分類及び表示に関する世界調和システム (GHS)」に示されている混合物の分類基準 (つなぎの原則、加成方式 (カットオフ値濃度限界)) によって、GHS 分類区分に分類できる場合は、上記の試験成績に代えて当該分類結果を提出することができる。この場合、 <u>6278 号通知別紙 1 別添 5 「ハザードに基づく評価法」</u> の規定を準用して利用する類似の混合物又は各成分の毒性データを提出すること。			
6～9 (略)			

(別紙1別添) (略)

別紙2 提出すべき資料の作成要領

I 微生物農薬及び農薬原体の組成等

1 微生物の生物学的情報

(1) (略)

(2) 報告事項

微生物農薬の製造に用いる有効成分である微生物について、次の①から③までに示す情報を報告する。文献、書籍等を引用した場合は引用元を明らかにし、必要に応じて該当資料を添付する。また、バクテリオファージを有効成分とする農薬原体又は微生物農薬を製造する際に、有効成分である微生物以外の微生物を使用する場合には、当該微生物に関する情報についても同様に報告する。

①～③ (略)

2・3 (略)

II～IV (略)

V 人及び家畜(蜜蜂を除く。)に対する影響

1～8 (略)

9 反復投与

(1) (略)

(2) 試験方法

(別紙1別添) (略)

別紙2 提出すべき資料の作成要領

I 微生物農薬及び農薬原体の組成等

1 微生物の生物学的情報

(1) (略)

(2) 報告事項

微生物農薬の製造に用いる有効成分である微生物について、次の①から③までに示す情報を報告する。文献、書籍等を引用した場合は引用元を明らかにし、必要に応じて該当資料を添付する。

①～③ (略)

2・3 (略)

II～IV (略)

V 人及び家畜(蜜蜂を除く。)に対する影響

1～8 (略)

9 反復投与

(1) (略)

(2) 試験方法

①～④ (略)

⑤ 検査項目

ア・イ (略)

ウ 剖検

試験中に死亡した動物は死後直ちに解剖し、死亡日時及び所見を記録する。生存している動物は実験終了時に解剖する。

全ての解剖について、解剖時期、所見を記録するとともに器官における感染の有無等を調べる。

エ (略)

(3)・(4) (略)

10～16 (略)

VI (略)

VII 生活環境動植物及び家畜（蜜蜂に限る。）に対する影響

1 淡水魚影響

(1) (略)

(2) 試験方法

①～⑤ (略)

⑥ 検査項目

ア～ウ (略)

エ 病理検査

①～④ (略)

⑤ 検査項目

ア・イ (略)

ウ 剖検

試験中に死亡した動物は死後直ちに解剖し、死亡日時及び所見を記録する。生存している動物は実験終了時に解剖する。

すべての解剖について、解剖時期、所見を記録するとともに器官における感染の有無等を調べる。

エ (略)

(3)・(4) (略)

10～16 (略)

VI (略)

VII 生活環境動植物及び家畜（蜜蜂に限る。）に対する影響

1 淡水魚影響

(1) (略)

(2) 試験方法

①～⑤ (略)

⑥ 検査項目

ア～ウ (略)

エ 病理検査

試験中に死亡があった場合は速やかに解剖し、死亡日時及び所見を記録する。生存している個体については、実験終了時に解剖する。全ての解剖について、解剖時期、所見を記録し、病変が認められた場合は感染の有無等を調べる。

(3)・(4) (略)

2・3 (略)

4 鳥類影響

(1) (略)

(2) 試験方法

①～⑤ (略)

⑥ 検査項目

ア・イ (略)

ウ 病理検査

試験中に死亡があった場合は速やかに解剖し、死亡日時及び所見を記録する。生存している個体については、実験終了時に解剖する。全ての解剖について、解剖時期及び所見を記録し、病変が認められた場合は感染の有無等を調べる。試験中、いずれの個体も死亡又は臨床兆候のない場合は剖検を不要とする。

(3)・(4) (略)

5 蜜蜂影響

(1) (略)

(2) 試験方法

試験中に死亡があった場合は速やかに解剖し、死亡日時及び所見を記録する。生存している個体については、実験終了時に解剖する。すべての解剖について、解剖時期、所見を記録し、病変が認められた場合は感染の有無等を調べる。

(3)・(4) (略)

2・3 (略)

4 鳥類影響

(1) (略)

(2) 試験方法

①～⑤ (略)

⑥ 検査項目

ア・イ (略)

ウ 病理検査

試験中に死亡があった場合は速やかに解剖し、死亡日時及び所見を記録する。生存している個体については、実験終了時に解剖する。すべての解剖について、解剖時期及び所見を記録し、病変が認められた場合は感染の有無等を調べる。試験中、いずれの個体も死亡又は臨床兆候のない場合は剖検を不要とする。

(3)・(4) (略)

5 蜜蜂影響

(1) (略)

(2) 試験方法

①～⑤ (略)

⑥ 検査項目

ア (略)

イ 病理検査

試験中の死亡個体については二次感染を回避するため、その都度、影響が認められた個体については試験終了時に微生物の感染の有無等を調べる。死亡個体の収集に当たっては、蜜蜂の巣箱にできるだけ影響しないように注意して行う。

(3)・(4) (略)

6～9 (略)

VIII 公表文献等に関する資料

(1) (略)

(2) 公表文献の収集、選択等の方法及び報告事項

新規の微生物を有効成分として含有する微生物農薬を申請する際に、当該新規の有効成分に関する農薬の安全性に関する文献の写し並びに当該文献の収集、選択及び分類の過程、結果等を取りまとめた報告書として、別紙3に示す手順で微生物農薬の有効成分である微生物の種名によって検索した少なくとも過去15年分の公表文献の一覧を提出する。なお、新たな知見等により、過去15年以内に種名が変更となった場合については、変更前の種名でも検索する。

①～⑤ (略)

⑥ 検査項目

ア (略)

イ 病理検査

試験中の死亡個体については二次感染を回避するためその都度、影響が認められた個体については試験終了時に微生物の感染の有無等を調べる。死亡個体の収集にあたっては、蜜蜂の巣箱にできるだけ影響しないように注意して行う。

(3)・(4) (略)

6～9 (略)

VIII 公表文献等に関する資料

(1) (略)

(2) 公表文献の収集、選択等の方法及び報告書

新規の微生物を有効成分として含有する微生物農薬を申請する際に、当該新規の有効成分に関する農薬の安全性に関する文献の写し並びに当該文献の収集、選択及び分類の過程、結果等を取りまとめた報告書として「公表文献の収集、選択等のためのガイドライン(令和3年9月22日付け農業資材審議会農薬分科会決定、令和5年7月27日付け一部改正)」のIVの1に示すデータベースを用いて、微生物農薬の有効成分である微生物の種名によって検索した少なくとも過去15年分の公表文献の一

IX (略)

(別紙2別添)(略)

別紙3 公表文献の収集、選択等の手順について

I. 本項の目的

本項は、微生物農薬の登録を判断する際のリスク評価において取り扱う公表文献の収集及び選択の手順を明確化することにより、公表文献の使用に関する一貫性及び透明性を確保することを目的とする。

II. 基本的な考え方

法第3条第2項において、農薬を登録する際に必要な試験成績のうち、特定試験成績はGLP基準に従って実施した試験によるものでなければならない旨を、また、規則第2条において提出すべき資料を定めている。微生物農薬の登録申請においては、具体的な試験方法を定めている本通知におけるテストガイドラインに基づく試験の実施を要求しており、提出された資料の審査結果に基づき、当該農薬が登録拒否基準(法第4条第1項各号)に該当しないかどうかを農林水産省において判断している。

公表文献の研究結果は、農薬の毒性プロファイル、影響のメカニズム解明をはじめとした影響の特定、特性評価、暴露評価等の登録

覧を提出する。

IX (略)

(別紙2別添)(略)

(新設)

に当たっての安全性評価を行う際の有益な情報となり得ることから、当該評価を最新の科学的知見に基づき実施するためには、公表文献も適切に活用することが重要である。

一方で、公表文献については、著者の研究目的に応じ、それぞれの方法で実施された研究結果が記載されることから、農薬の登録申請のために要求している試験成績と異なり、評価・審査の目的との適合性や結果の信頼性が様々である。そのため、安全性評価に活用できる公表文献の収集、選択等を行うに当たっては、以下の点に留意する。

- 収集する公表文献は、「査読プロセスのある学術ジャーナルに全文掲載された文献であり、かつ、日本語又は英語で作成された一次資料（原著）」とする。
- 収集に当たっては、評価目的に合致した研究分野を網羅するキーワードを用いた検索により、広範な文献検索を行う。
- 評価目的と適合しない文献については収集した文献から除外する。

Ⅲ．収集する公表文献

評価の目的との適合性及び結果の信頼性に基づき分類するためには、試験方法について詳細な情報が必要であるため、提出する一覧に記載する公表文献は、「査読プロセスのある学術ジャーナルに全文掲載された文献、かつ、日本語又は英語で作成された一次資料（原著）」とする。あわせて、データが掲載された原著が入手できる場合

には、原著とともに総説及び成書も対象とする。

IV. 文献検索の方法

透明性及び再現性を確保するために、公表文献の一覧の作成に係る各プロセスについて一定の手順を示しておく必要がある。具体的には、文献の収集に当たり検索に使用するデータベース、収集の対象とする文献の範囲、文献を検索する手順並びに評価目的と適合しない文献の除外及び報告すべき事項が挙げられる。それぞれについて、以下のとおりとする。

1. 検索に使用するデータベース

広範な文献検索が可能であること及び一定の質が確保された論文の検索が可能であることから、研究者に広く使用されている論文データベースを用いて検索することが望ましい。

日本の大学及び研究機関で広く利用されているデータベース並びに農薬の評価においてシステムティックレビューを導入している欧州で利用されている科学論文データベースとして、AGRICOLA、AGRIS、BIOSIS、CABA、EMBASE、MEDLINE、SCISEARCH、Toxcenter、CiNii Articles 等が知られている。これらの概要、包含する分野、収載する文献数等を表1にまとめた。

あわせて、複数のデータベースの横断的な検索が可能な電子ジャーナルプラットフォームとして STN International、Web of Science 及び J-STAGE もよく利用されている。その概要は、表2に示すとおり

である。

広範な文献検索を行うこと及び一定の質を確保した論文検索を行うことを考慮し、ヒトへの毒性、標的外生物（家畜及び生活環境動植物）への影響及び環境動態の3つの分野（詳細は次の2.を参照）をカバーできるよう、表1に示すデータベースを選択することとする。また、使用したデータベースの適切性の判断に資するよう、データベースの情報を報告することとする。

また、掲載論文の中立性及び収録数の多さに加え、複数のデータベースの一括検索が可能であることから、検索結果から他のデータベースへのリンクなども利用できる STN International 又は Web of Science を用いて網羅的に検索することが望ましい。Web of Science を用いる場合には、全編のコンテンツを包括している Web of Science Core Collection を用いることとする。

なお、日本で出版されている論文を検索する際には J-STAGE が有用であり、日本で分離・同定された又は存在が確認されている微生物を有効成分とする微生物農薬については、上記に加え、J-STAGE を用いた検索を必須とする。

表1 代表的な科学論文データベースとその概要

データベース名	収録分野	収録範囲、文献数	更新頻度
AGRICOLA (Agriculture)	農業関連分野を 広範に収録	1970年～現在 710万論文	月1回

<u>Online Access Database)</u>	<u>生物学、生物工学、生態学、植物学等</u>	<u>(2020年9月時点)</u>	
<u>AGRIS (International System for Agricultural Science and Technology)</u>	<u>国際農業科学技術システム 農業経済、植物学、ポストハーベ ストテクノロジー、林学、動物 学、水産学、農業 工学、自然資源・ 環境学等</u>	<u>1975年～現在 1,600万論文 (2025年3月 時点)</u>	<u>月1回</u>
<u>BIOSIS (BIOSIS Previews /RN Database)</u>	<u>生物学、生物医学 関連の最大のデー タベース 生物化学、免疫、 病理、生理学、毒 性学、薬学等</u>	<u>1926年～現在 2,780万論文 (2019年4月 時点)</u>	<u>週1回</u>
<u>CABA</u>	<u>農業関連 生物学、生物工 学、林学、植物 学、食品工学、栄 養学、土壌、肥料</u>	<u>1973年～現在 990万論文 (2020年9月 時点)</u>	<u>週1回</u>

	学等		
<u>CAplus/</u> <u>HCAplus/</u> <u>ZCAplus</u> <u>(Chemical</u> <u>Abstracts Plus)</u>	<u>化学関連</u> <u>分析化学、生化</u> <u>学、化学工学、有</u> <u>機化学等</u>	<u>1907年～現在</u> <u>5,460万論文</u> <u>(2020年9月</u> <u>時点)</u>	<u>毎日</u>
<u>EMBASE</u>	<u>生物医学、薬学関</u> <u>連</u> <u>生化学、医学、法</u> <u>医学、薬学、公衆</u> <u>衛生、環境科学等</u>	<u>1947年～現在</u> <u>3,430万論文</u> <u>(2018年8月</u> <u>時点)</u>	<u>毎日</u>
<u>ESBIOBASE</u> <u>(Elsevier</u> <u>BIOBASE)</u>	<u>生物学、生化学全</u> <u>般</u> <u>応用微生物学、細</u> <u>胞生物学、生態</u> <u>学、環境科学、臨</u> <u>床医学、分子生物</u> <u>学、毒性学、神經</u> <u>科学、植物学等</u>	<u>1994年～現在</u> <u>850万論文</u> <u>(2020年9月</u> <u>時点)</u>	<u>週1回</u>
<u>FSTA</u> <u>(Food Science</u> <u>and Technology</u> <u>Abstracts)</u>	<u>食品製造に関する</u> <u>科学、技術</u> <u>生化学、衛生学、</u> <u>毒性学、発酵学、</u>	<u>1969年～現在</u> <u>159万論文</u> <u>(2020年9月</u> <u>時点)</u>	<u>週1回</u>

	<u>生理学、植物病理学等</u>		
<u>MEDLINE (PubMed)</u>	米国国立医学図書館が提供する医学、看護、歯学、獣医学、保健医療分野から前臨床領域の文献を収載	1946年～現在 3,000万論文 (2019年8月時点)	週6回
<u>PQSCITECH (ProQuest Science & Technology)</u>	科学、技術全般を収載 25のデータベース ¹⁾ を統合	1962年～現在 3,360万論文 (2021年1月時点)	月1回
<u>REGISTRY /ZREGISTRY (CAS REGISTRY)</u>	無機科学、有機化学全般 ミネラル、混合物、高分子、塩、HTS化合物、核酸、たんぱく質等に関する情報を収載	1800年代初期～現在 1億5,900万件 (2020年6月時点)	毎日
<u>SCISEARCH (Science Citation Index)</u>	科学、工学、生物医学の広範な文献を収載	1974年～現在 4,770万論文 (2019年8月)	週1回

		<u>時点)</u>	
<u>Scopus</u>	<u>エルゼビアが提供 する全分野 (科 学、技術、医学、 社会科学、人文科 学) の文献を収載</u>	<u>1800 年代～現 在 8,200 万論文 (2021 年 6 月 時点)</u>	<u>毎日</u>
<u>TOXCENTER</u>	<u>薬学、生化学、生 理学、医薬及び一 般化学物質の毒性 等</u>	<u>1907 年～現在 1,440 万論文 (2019 年 8 月 時点)</u>	<u>週 1 回</u>
<u>CiNiiArticles</u>	<u>国立情報学研究所 が提供する日本国 内の学術論文、学 協会誌等を収載</u>	<u>1950 年～現在 2,063 万論文 (2021 年 6 月 時点)</u>	<u>週 1 回</u>

¹⁾AEROSPACE、ALUMINIUM、ANTE、AQUALINE、AQUASCI、
BIOENG、CERAB、CIVILENG、COMPUAB、CONFSCI、COPPERLIT、
CORROSION、ELCOM、EMA、ENVIROENG、HEALSAFE、LIFESCI、
LISA、METBUS、MECHENG、METADEX、OCEAN、POLLUAB、
SOLIDSTATE、WATER
(参照) <https://www.stn-international.com/en/database-summary-sheets>

表 2 代表的な電子ジャーナルプラットフォーム及びその概要

● STN International

- 公表文献、特許、化学構造、物理的性質、配列等を含む、世界で公開されている科学的及び技術的情報のデータベースにオンラインでアクセスできる国際的な科学技術情報ネットワークシステム
- 複数のデータベースに同時にアクセスし、自然科学、技術科学及び応用科学の全範囲に関する情報を検索可能
- 表1にリストアップしたデータベースをはじめとした150を超えるデータベースを収載。なお、各データベースの概要は下記サイトで参照可能。
<https://www.stn-international.com/en/database-summary-sheets>
- 欧州の農薬登録における文献収集で頻繁に利用されているプラットフォーム

● Web of Science

- 出版社に中立的な世界最大の引用索引・研究情報プラットフォーム
- 科学技術分野（1900年～）、社会科学分野（1900年～）及び人文科学分野（1975年～）の主要な学術雑誌に掲載された文献の書誌・引用文献情報、1990年以降の世界の重要会議、シンポジウム、セミナー等で

発行された会議録の情報を収録。254の専門分野に分類の上掲載されており、毎週更新される。

- 査読など一定の要件を満たした約20,000誌の雑誌に掲載された1.7億本の論文にアクセスし、検索結果の絞込み、被引用数での並び替え、引用ネットワーク、引用文献検索等が可能。また、よく引用されている重要文献を調べることも可能。
- 以下のようなデータベースに掲載された文献の引用が可能。

Data Citation Index、Derwent Innovations Index、BIOSIS Previews、Biological Abstracts、BIOSIS Citation Index、Current Contents Connect、Zoological Record、Inspec、CABI:CAB Abstracts、CABI:Global Health、MEDLINE、FSTA – the food science resource、Russian Science Citation Index、Chinese Science Citation Index、KCI - Korean Journal Database、SciELO Citation Index

● J-STAGE

- 科学技術振興機構が提供する、日本国内の科学技術情報の電子ジャーナルプラットフォーム
- 自然科学、人文・社会科学、学際領域等の分野について、国内の1,500を超える発行機関が、3,000誌以上のジャーナルや会議録等の刊行物を公開

2. 収集の対象とする文献の範囲

評価に供する論文については、

- ① 対象とする微生物農薬又はその有効成分である微生物等
(詳細は次の3. を参照) についての論文であること
- ② 評価対象とするヒトに対する毒性、標的外生物(家畜及び
生活環境動植物)に対する影響及び環境動態の3分野の影
響についての論文であること
- ③ 評価対象の生物種等についての論文であること

の3点が重要であることから、①、②及び③の積集合(AND)を検
索対象とする。

3. 文献を検索する手順

論文の収集及び選択を広範にかつ透明性高く実施するため、まず

(1) の条件で対象となる農薬に関する全論文を抽出し、引き続き、
(2)、(3) の順にそれぞれの条件に該当する文献を絞り込むとい
う手順とする。

(1) から(3) までの検索キーワードは以下のとおりとする。な
お、(2) 以降の絞り込みをかけず、評価目的と適合しない文献を除
外することも可とする。

(1) 対象とする微生物農薬等に関する検索

- 当該微生物農薬の有効成分である微生物の種名
- 宿主となる微生物、昆虫等が製剤中に残存する場合はその種

名

- 代表的な製剤（広く知られている製剤名）
- 安全性評価の上で考慮する必要のある二次代謝物*1 その他の成分がある場合には、その化合物も対象とする。

なお、新たな知見等により、検索期間内に当該微生物農薬の有効成分である微生物等の種名が変更になった場合は、変更前の種名でも検索する。

* 1 過去の評価において明らかにされているヒトの健康や環境影響を評価する上で考慮しなければならないとされた化合物、例えば、毒性が高いと判断された二次代謝物（例：ADI が設定されている代謝物）等を指す。

(2) 評価対象とする影響

- IV. の 2. の②に掲げるヒトに対する毒性、標的外生物（家畜及び生活環境動植物）に対する影響及び環境動態の 3 分野とする。
- これら 3 分野それぞれについて、設定された複数のキーワードのうちのいずれかを含む文献を選抜する。
 - ✓ 対象とする微生物農薬の特性に合わせてそれぞれの分野の文献を網羅的に選抜できるよう、表 3 から表 5 までに示す各小分野を参考として適切なキーワードを組み合わせる文献を選抜する。
 - ✓ Web of Science を使用する場合には、上記のキーワードに

よる選抜に代えて表6に定める分野(分類フィールド)に含まれる全文献を選抜してもよい。

表3 ヒトに対する毒性に関連する文献を検索するキーワード候補例

<p>A. <u>病原体及び病原性</u></p>	<p><u>allergy, allergic reaction, bacteremia, bacteria, carcinogenesis, chronic, colonisation, colonise, colonization, colonize, deadly, disease, fatal, histopathological change, illness, immunopathology, infection, inflammation, invasion, lethal, mycosis, mycetoma, oncogenesis, opportunistic infections, pathogen, pathogenic, pathogenicity trait(s), persistence, resistance to antibiotics, sepsis, tumor formulation, tumorigenesis, virulence, virulent</u></p>
<p>B. <u>感染性</u></p>	<p><u>contagious, epidemic, high-risk group, immune system activation, immunocompromised, infectious, infectious dose, infective, nosocomial, opportunistic, transmissible, transmission</u></p>
<p>C. <u>毒性</u></p>	<p><u>apoptosis, biologically active compound,</u></p>

	<u>cancer, carcinogen, carcinogenesis,</u> <u>compound, contaminative, contaminant,</u> <u>cytotoxicity, developmental, edema, embryo,</u> <u>fetus, hematology, hematotoxicity, hepatic,</u> <u>hypersensitivity, immune,</u> <u>immunodeficiency, irritation, malformation,</u> <u>metabolite, mutagen, mutagenesis, nocuous,</u> <u>noxious, offspring, oxidative stress,</u> <u>pathological, pathology, poisoning,</u> <u>poisonous, pregnancy, renal, reproduction,</u> <u>sensitization, toxic product, toxic, toxin,</u> <u>toxicity, toxigenic, tumor, tumorigenesis</u>
D. 行動	<u>adhesion, behavior, behaviour, biofilm,</u> <u>colonisation, colonization, dispersion,</u> <u>germination, mobility, multiplication,</u> <u>proliferation, quorum sensing, spore, spread,</u> <u>survival, swarming, toxicity study, viability</u>
E. 環境	<u>abiotic, application time, biotic condition,</u> <u>dessication, flowering, humidity, juvenile,</u> <u>maturation, plant growth stage, plant health,</u> <u>senescence, season, temperature, time of</u> <u>application, water content</u>
F. 生命段階	<u>asexual, cultivable, cyst, dispersion,</u>

	<u>dormancy, dormant, endospore, germination, life stage, lytic, lysogenic, persistence, propagation, senescence, sexual, spore, sporulation, sprouting</u>
G. <u>生残性及び成長性</u>	<u>growth, infestation, internalization, multiplication, multiply, proliferate</u>
H. <u>遺伝物質の伝達及び挿入突然変異誘発</u>	<u>(“antibiotic resistance” AND transfer), biosynthetic gene cluster, conjugation, conjugative, crossover, DNA adduct, DNA exchange, DNA transfer, extra-chromosomal element, gene exchange, gene transfer, genetic stability, genotype stability, horizontal gene transfer, insertion, integration, lateral gene transfer, LGT, mobile element, mutation, PAI, pathogenicity island, pili, plasposon, reactive oxygen species, (“resistance to antibiotic” AND transfer), ROS, transduction, transformation, transposon</u>

表4 標的外生物（家畜及び生活環境動植物）に対する影響に関する検索キーワード候補例

I. <u>代謝産物の産生及</u>	<u>metabolite, non-target organism, toxic, toxin</u>
--------------------	--

び標的外生物への潜在的な影響	
J. 標的外生物に対する潜在的な影響	<u>adverse effect, antibiosis, competition, host pathogenicity, host specificity, infectivity, inhibition, lethality, pathogenic, parasite, parasitism, specificity, susceptibility, virulence</u>

表 5 環境動態に関する検索キーワード候補例

K. 遺伝的安定性及び転移	<u>conjugation, exchange, mutation, natural competence, stability, transduction, transfer, uptake</u>
L. 飲料水水質管理体系への干渉	<u>analysis, analytical system, control, quality</u>
M. 環境動態	<u>accumulation, background level, behavior, behaviour, colonization, dispersal, dispersion, displacement, ecophysiology, fate, interaction, leaching, mobility, multiplication, persistence, proliferation, spread, stability, survival</u>

表 6 Web of Science を用いた検索における評価対象とする影響に関する分類フィールド

ヒトに対する毒性

agriculture multidisciplinary
allergy
biochemistry molecular biology
cell biology
clinical neurology
critical care medicine
developmental biology
emergency medicine
endocrinology metabolism
environmental sciences
genetics heredity
immunology
medicine general internal
medicine research experimental
multidisciplinary sciences
neurosciences
oncology
pediatrics
pharmacology pharmacy
physiology
public environmental occupational health
reproductive biology
toxicology

	<u>veterinary sciences</u>
標的外生物（家畜及 び生活環境動植物） に対する影響	<u>agriculture multidisciplinary</u> <u>biochemistry molecular biology</u> <u>biodiversity conservation</u> <u>biology</u> <u>cell biology</u> <u>developmental biology</u> <u>ecology</u> <u>endocrinology metabolism</u> <u>entomology</u> <u>environmental sciences</u> <u>environmental studies</u> <u>fisheries</u> <u>marine freshwater biology</u> <u>microbiology</u> <u>multidisciplinary sciences</u> <u>neurosciences</u> <u>ornithology</u> <u>pharmacology pharmacy</u> <u>plant sciences</u> <u>reproductive biology</u> <u>toxicology</u> <u>veterinary sciences</u>

	<u>zoology</u>
<u>環境動態</u>	<u>agriculture multidisciplinary</u> <u>ecology</u> <u>environmental sciences</u> <u>environmental studies</u> <u>fisheries</u> <u>limnology</u> <u>marine freshwater biology</u> <u>multidisciplinary sciences</u> <u>soil science</u> <u>water resources</u>

(3) 評価対象の生物種等

IV. の2. の②の3分野について、評価対象の生物種等に関する内容の文献を抽出するために、表7のキーワードのいずれかを含む文献を検索する。

表7 評価対象とする生物種等に関するキーワード

<u>ヒトに対する毒性</u>	<u>human, mammal, mammalian</u>
<u>生活環境動植物及び家畜に対する毒性</u>	<u>avian, bird, mallard duck, quail, bobwhite, lemna, algae, fish, crustacean, aquatic, chironomus, bumble/honey/solitary bee, pollinator, apis, endangered species/</u>

	<u>threatened species, closely related species, microorganisms, plant, field crop</u>
環境動態	<u>air, aquatic environment, ditch, DNA, environment, gene, genetic, ground, groundwater, soil, stream, surface water, plant, pond, rhizosphere, water</u>

CiNiiArticles 等の日本語の文献が含まれるデータベース及び J-STAGE を用いる場合には (1) から (3) までのそれぞれについて、英語及び日本語のキーワードで検索する。日本語で検索する場合には上記キーワード例の和名又は和訳を参考とし、有効成分である微生物については、学名及び和名の両方で検索する。

表 3 から表 5 まで及び表 7 に示すキーワードについては、必要に応じて見直しを行う。なお、対象となる農薬の毒性プロファイル、物性等の既知の情報から追加の検索が必要と判断される場合には、検索範囲がより広くなるように他のキーワードを用いることも可とする。

4. 評価目的と適合しない文献の除外

IV. の 1. から 3. までの条件に従って検索した公表文献のうち、明らかに評価の目的と適合しない文献については、(1) 及び (2) の手順に沿って検索された文献の一覧から除く。

なお、欧州食品安全機関 (EFSA) 及び米国環境保護庁 (USEPA)

の評価において、IV. の 2. の②の 3 分野に関する公表文献が評価書*²に引用されている場合は、我が国における評価においても参考にすべき文献であると考えられるため、出版年によらず、どの機関で評価に使用されたかという情報を付して、全て報告することとする。

* 2 欧州については、新規登録若しくは再評価において公開された EFSA の評価書（その分野全体が評価されたもの）又は評価担当国が作成したドラフト評価書（Draft Assessment Report (DAR) 又は Renewal Assessment Report (RAR)）のうち、直近のものを必須とする。また、米国については、公開された EPA の評価書（IV. の 2. の②に掲げる各分野を評価した Registration Review、例えば Draft Human Health Risk Assessment 及び Ecological Risk Assessment）のうち、直近のものを必須とする。

(1) 文献の表題及び概要に基づく除外

文献の表題及び概要に基づき、選抜条件を設定して検証し、該当したものは文献の一覧から除く。明らかに評価の目的と適合しない文献として、例えば、下記の①から⑬までに該当するものが挙げられる。

- ① 当該微生物農薬及び有効成分である微生物と関係しない論文（別の種の微生物に関する文献等）
- ② 政策、社会及び経済分析に関する論文
- ③ 農産物等の生産及び流通に関する論文
- ④ 安定性その他の物理的・化学的性状に関する論文

- ⑤ 当該微生物及びその代謝物等に関する分析法並びにその開発に関する論文
- ⑥ 当該微生物の分類学に関する論文
- ⑦ 特許関連文献
- ⑧ リスク評価をする上で十分なデータや情報を含まない学会発表等の概要、総説及び成書
- ⑨ リスク評価に使用できる新規のデータが提示されていない意見書
- ⑩ 科学論文及び規制についての総説を含む二次情報において、当該文献が参照する一次資料(原著)の確認ができないもの
- ⑪ 一般的な農薬の暴露に関する論文(当該農薬に限定せず、広範囲の農薬について記載されたもの)
- ⑫ 異なる有効成分に由来する混合製剤の毒性に関する論文
- ⑬ IV. の2. の②に掲げる3分野に関係しない論文

(2) 文献の全文に基づく除外

(1) で除外した以外の公表文献については、文献全文の内容に基づいて、(1)と同様に評価目的との適合性を検証し、評価の目的に適合しなかった文献については、文献の一覧から除くことを可とする。

5. 報告すべき事項

公表文献の選択の透明性確保及び検索の質の評価のために、検索プロセスとその結果を文献の一覧と併せて報告する。記載すべき内容は以下のとおりとする。

- ① 検索に用いたデータベース、検索日及び検索に用いたデータベースに関する情報（用いたデータベースの特徴、文献検索時の文献数、更新頻度等）
- ② 検索に使用したキーワード及び検索の条件（AND/OR の条件も含む）
- ③ 評価目的と適合しない文献の除外基準
- ④ 検索結果のまとめ：当該微生物農薬の有効成分である微生物の種名で検索した総論文数及びキーワードで絞り込みを行った場合その結果の論文数
- ⑤ 検索された文献の一覧（データ要求（項目番号）、申請者が申請の際に提出すべき農薬の安全性その他の品質に関する試験成績を記載した書類及び農薬の見本に係る資料（以下「ドシエ」という。）への掲載の有無、検索した小分野、著者、出版年、論文表題、掲載誌名、号、ページ等）
- ⑥ EFSA 及び USEPA の評価書において文献が引用されている場合は、当該文献を引用した機関、当該文献が引用された評価書名、当該評価書の発行年等の情報
- ⑦ 文献に対して反論がある場合には、報告書の別添としてまとめ、文献リストにその旨を記載

報告書の作成に当たっては、別紙3参考に示す様式例を参考とする。なお、リスク評価機関が、追加の公表文献等が必要と判断する場合には、その求めに応じ、追加情報を提出することとする。

V. その他留意事項

公表文献の著作権に関する事項については、公表文献を提出する者が責任を持つものとする。

(別紙3参考) 報告様式例

報告者は、検索結果を一覧として表にまとめる際には、冒頭に「5. 報告すべき事項」の概要（用いた検索プロセス、検索期間、検索結果等）を記載する。「5. 報告すべき事項」の各項目についてまとめる際には下記の様式例を参考とする。

1. 検索に用いたデータベース、検索日及び検索に用いたデータベースに関する情報（用いたデータベースの特徴、文献検索時の文献数、更新頻度等）

(様式例1)

表〇 文献検索に用いたデータベースの概要

<u>データベ ース名</u>	<u>データ ベース の特徴 収載分</u>	<u>収載範 囲、文 献検索</u>	<u>更新頻 度</u>	<u>検索日</u>	<u>検索対象期 間</u>
---------------------	------------------------------------	----------------------------	------------------	------------	--------------------

	野等	時の文 献数			
<u>MEDLINE</u> (PubMed)	米国学 立医学 図書館 が提供 する医 学、看 護、歯 学、獣 医学、 保健医 療分野 から前 臨床領 域の文 献を収 載	1946 年～現 在 3,000 万論文 (2019 年8月 現在)	週6回	2021/0 8/03 (複数 日に検 索した 場合は 全て記 載)	2006/01/01 ～ 2021/08/03
<u>Database 2</u>					
<u>Database 3</u>					

2. 検索に使用したキーワード及び検索の条件

(1) 対象とする農薬

(様式例 2 (1))

表〇 検索に用いたキーワード：有効成分となる微生物〇〇

<u>種名</u>	
<u>種名 (和名)</u>	

表〇 検索に用いたキーワード：有効成分〇〇を含む製剤

<u>製剤名</u>	
<u>その他名称</u>	

表〇 検索に用いたキーワード：二次代謝物□□

<u>一般名</u>	
<u>IUPAC/CAS 名</u>	
<u>CAS 番号</u>	
<u>その他名称</u>	

有効成分である微生物については種名のラテン名及び和名を、製剤については製剤名及びその他名称を、代謝物については一般名、IUPAC/CAS 名及び CAS 番号を OR で結んで検索。検索対象となる有効成分である微生物のほか、代表的な製剤名、二次代謝物等について複数ある場合には全てを記載。

(2) 評価対象とする影響

(様式例2 (2) -1) 分野ごとに検索する場合

表〇 3分野に関連する文献の検索に用いたキーワード

<u>ヒトに対する毒性</u>	<u>A. 病原体及び病原性</u>	<u>allergy OR allergic reaction OR bacteremia OR bacteria OR carcinogenesis OR chronic OR colonisation OR colonise OR colonization OR colonize OR deadly OR disease OR fatal OR histopathological change OR illness OR immunopathology OR infection OR inflammation OR invasion OR lethal OR mycosis OR mycetoma OR oncogenesis OR opportunistic infections OR pathogen OR pathogenic OR pathogenicity trait(s) OR persistence OR resistance to antibiotics OR sepsis OR tumor formulation OR tumorigenesis OR virulence OR virulent</u>
	<u>B. 感染性</u>	<u>contagious OR epidemic OR high-risk group OR immune system activation OR immunocompromised OR infectious OR infectious dose OR infective OR nosocomial OR opportunistic OR</u>

	<u>transmissible</u> OR <u>transmission</u>
C. 毒性	<u>apoptosis</u> OR <u>biologically active compound</u> OR <u>cancer</u> OR <u>carcinogen</u> OR <u>carcinogenesis</u> OR <u>compound</u> OR <u>contaminative</u> OR <u>contaminant</u> OR <u>cytotoxicity</u> OR <u>developmental</u> OR <u>edema</u> OR <u>embryo</u> OR <u>fetus</u> OR <u>hematology</u> OR <u>hematotoxicity</u> OR <u>hepatic</u> OR <u>hypersensitivity</u> OR <u>immune</u> OR <u>immunodeficiency</u> OR <u>irritation</u> OR <u>malformation</u> OR <u>metabolite</u> OR <u>mutagen</u> OR <u>mutagenesis</u> OR <u>nocuous</u> OR <u>noxious</u> OR <u>offspring</u> OR <u>oxidative stress</u> OR <u>pathological</u> OR <u>pathology</u> OR <u>poisoning</u> OR <u>poisonous</u> OR <u>pregnancy</u> OR <u>renal</u> OR <u>reproduction</u> OR <u>sensitization</u> OR <u>toxic product</u> OR <u>toxic</u> OR <u>toxin</u> OR <u>toxicity</u> OR <u>toxigenic</u> OR <u>tumor</u> OR <u>tumorigenesis</u>
D. 行動	<u>adhesion</u> OR <u>behavior</u> OR <u>behaviour</u> OR <u>biofilm</u> OR <u>colonisation</u> OR <u>colonization</u> OR <u>dispersion</u> OR

	<u>germination</u> OR <u>mobility</u> OR <u>multiplication</u> OR <u>proliferation</u> OR <u>quorum sensing</u> OR <u>spore</u> OR <u>spread</u> OR <u>survival</u> OR <u>swarming</u> OR <u>toxicity</u> <u>study</u> OR <u>viability</u>
E. 環境	<u>abiotic</u> OR <u>application time</u> OR <u>biotic</u> <u>condition</u> OR <u>desiccation</u> OR <u>flowering</u> OR <u>humidity</u> OR <u>juvenile</u> OR <u>maturation</u> OR <u>plant growth stage</u> OR <u>plant health</u> OR <u>senescence</u> OR <u>season</u> OR <u>temperature</u> OR <u>time of application</u> OR <u>water content</u>
F. 生命段 階	<u>asexual</u> OR <u>cultivable</u> OR <u>cyst</u> OR <u>dispersion</u> OR <u>dormancy</u> OR <u>dormant</u> OR <u>endospore</u> OR <u>germination</u> OR <u>life</u> <u>stage</u> OR <u>lytic</u> OR <u>lysogenic</u> OR <u>persistence</u> OR <u>propagation</u> OR <u>senescence</u> OR <u>sexual</u> OR <u>spore</u> OR <u>sporulation</u> OR <u>sprouting</u>
G. 生残性 及び成長性	<u>growth</u> OR <u>infestation</u> OR <u>internalization</u> OR <u>multiplication</u> OR <u>multiply</u> OR <u>proliferate</u>
H. 遺伝物	(“ <u>antibiotic resistance</u> ” AND <u>transfer</u>)

	<u>質の伝達及び挿入突然変異誘発</u>	<u>OR biosynthetic gene cluster OR conjugation OR conjugative OR crossover OR DNA adduct OR DNA exchange OR DNA transfer OR extra-chromosomal element OR gene exchange OR gene transfer OR genetic stability OR genotype stability OR horizontal gene transfer OR insertion OR integration OR lateral gene transfer OR LGT OR mobile element OR mutation OR PAI OR pathogenicity island OR pili OR plasposon OR reactive oxygen species OR (“resistance to antibiotic” AND transfer) OR ROS OR transduction OR transformation OR transposon</u>
<u>標的外生物（家畜及び生活環境動物）に対する影響</u>	<u>I. 代謝産物の産生及び標的外生物への潜在的な影響</u>	<u>metabolite OR non-target organism OR toxic OR toxin</u>
	<u>J. 標的外生物に対す</u>	<u>adverse effect OR antibiosis OR competition OR host pathogenicity OR</u>

	る潜在的影響	<u>host specificity</u> OR <u>infectivity</u> OR <u>inhibition</u> OR <u>lethality</u> OR <u>pathogenic</u> OR <u>parasite</u> OR <u>parasitism</u> OR <u>specificity</u> OR <u>susceptibility</u> OR <u>virulence</u>
環境動態	K. 遺伝的安定性及び転移	<u>conjugation</u> OR <u>exchange</u> OR <u>mutation</u> OR <u>natural competence</u> OR <u>stability</u> OR <u>transduction</u> OR <u>transfer</u> OR <u>uptake</u>
	L. 飲料水水質管理系への干渉	<u>analysis</u> OR <u>analytical system</u> OR <u>control</u> OR <u>quality</u>
	M. 環境動態	<u>accumulation</u> OR <u>background level</u> OR <u>behavior</u> OR <u>behaviour</u> OR <u>colonization</u> OR <u>dispersal</u> OR <u>dispersion</u> OR <u>displacement</u> OR <u>ecophysiology</u> OR <u>fate</u> OR <u>interaction</u> OR <u>leaching</u> OR <u>mobility</u> OR <u>multiplication</u> OR <u>persistence</u> OR <u>proliferation</u> OR <u>spread</u> OR <u>stability</u> OR <u>survival</u>

(様式例 2 (2) -3) Web of Science (Core Collection) を用いた場合

表〇 評価対象とする影響に関する分類フィールド (Web of

Science)

ヒトに対する毒性

agriculture multidisciplinary
allergy
biochemistry molecular biology
cell biology
clinical neurology
critical care medicine
developmental biology
emergency medicine
endocrinology metabolism
environmental sciences
genetics heredity
immunology
medicine general internal
medicine research experimental
multidisciplinary sciences
neurosciences
oncology
pediatrics
pharmacology pharmacy
physiology
public environmental occupational health
reproductive biology

	<u>toxicology</u>
	<u>veterinary sciences</u>
標的外生物（家畜及び生活環境動植物）に対する影響	<u>agriculture multidisciplinary</u> <u>biochemistry molecular biology</u> <u>biodiversity conservation</u> <u>biology</u> <u>cell biology</u> <u>developmental biology</u> <u>ecology</u> <u>endocrinology metabolism</u> <u>entomology</u> <u>environmental sciences</u> <u>environmental studies</u> <u>fisheries</u> <u>marine freshwater biology</u> <u>microbiology</u> <u>multidisciplinary sciences</u> <u>neurosciences</u> <u>ornithology</u> <u>pharmacology pharmacy</u> <u>plant sciences</u> <u>reproductive biology</u> <u>toxicology</u>

	<u>veterinary sciences</u>
	<u>zoology</u>
環境動態	<u>agriculture multidisciplinary</u>
	<u>ecology</u>
	<u>environmental sciences</u>
	<u>environmental studies</u>
	<u>fisheries</u>
	<u>limnology</u>
	<u>marine freshwater biology</u>
	<u>multidisciplinary sciences</u>
	<u>soil science</u>
	<u>water resources</u>

※表○に定める分類フィールドに含まれる全文献を選抜

(3) 評価対象の生物種等

(様式例 2 (3))

表○ 評価対象とする生物種等に関するキーワード

<u>ヒトに対する毒性</u>	<u>human OR mammal OR mammalian</u>
<u>標的外生物（家畜及び生活環境動植物）に対する</u>	<u>avian OR bird OR mallard duck OR quail OR bobwhite OR lemna OR algae OR fish OR crustacean OR aquatic OR chironomus OR</u>

る影響	<u>bumble/honey/solitary bee OR pollinator OR apis OR endangered species OR threatened species OR closely related species OR microorganisms OR plant OR field crop</u>
環境動態	<u>air OR aquatic environment OR ditch OR DNA OR environment OR gene OR genetic OR ground OR groundwater OR soil OR stream OR surface water OR plant OR pond OR rhizosphere OR water</u>

3. 評価目的と適合しない文献の除外における判断基準

(様式例 3-1) 評価目的と適合しない文献の除外における判断基準

文献の内容に基づく除外

(第1段階として、) 文献の表題及び概要に基づき、下記の①から⑬までに該当するものは明らかに評価の目的と適合しない文献とみなした。(また、第2段階として、文献全文の内容に基づき、同様に判断した。)

- ① 当該微生物農薬及び有効成分である微生物と関係しない論文 (別の生物種に関する論文等)
- ② 政策、社会及び経済分析に関する論文
- ③ 農産物等の生産及び流通に関する論文
- ④ 安定性その他の物理的・化学的性状に関する論文
- ⑤ 当該微生物及びその代謝物等に関する分析法並びにそ

の開発に関する論文

- ⑥ 当該微生物の分類学に関する論文
- ⑦ 特許関連文献
- ⑧ リスク評価をする上で十分なデータ及び情報を含まない学会発表等の概要、総説及び成書
- ⑨ リスク評価に使用できる新規のデータが提示されていない意見書
- ⑩ 科学論文及び規制についての総説を含む二次情報において、当該文献が参照する一次資料（原著）の確認ができないもの
- ⑪ 一般的な農薬の暴露に関する論文（当該農薬に限定せず、広範囲の農薬について記載されたもの）
- ⑫ 異なる有効成分に由来する混合製剤の毒性に関する論文
- ⑬ IV. の 2. の②に掲げる 3 分野に関係しない論文

4. 検索結果のまとめ

（様式例 4-1）各データベースを検索した結果のまとめ

表〇 各データベースを検索した結果のまとめ¹⁾

<u>データベース名</u>	<u>MEDLINE (PubMed)</u>
<u>検索日²⁾</u>	<u>2025/10/1</u>
<u>検索対象期間</u>	<u>2010/10/1 から 2025/9/30 まで</u>
<u>最終の更新日</u>	<u>2025 年 10 月第 1 週</u>

検索に用いた キーワード	① 様式例 2(1)で定めるキーワード ② 様式例 2(2)で定めるキーワード ③ 様式例 2(3)で定めるキーワード		
検索結果			
検索条件 (キ ーワード)	①	① AND ②	① AND ② AND ③
対象とする農 薬名で検索・ 抽出した総論 文数	4,530	NA	NA
ヒトに対する 毒性	NA	542	130
標的外生物 (家畜及び生 活環境動植 物) に対する 影響	NA	2,405	423
環境動態	NA	962	563

1) 検索に用いたそれぞれのデータベースについて記載

2) 複数日に検索した場合には、検索日及び検索・抽出した総論文数を全て記載

NA : 該当するデータなし

(様式例 4-2) 全てのデータベースの検索結果を統合したまとめ

表〇 全てのデータベースの検索結果を統合したまとめ

	論文数
<u>対象とする農薬名で検索・抽出した総論文数（全データベースの合計）</u>	
<u>データベース間の重複を除いた総論文数¹⁾</u>	
<u>ヒトに対する毒性に関する論文数¹⁾</u>	
<u>標的外生物（家畜及び生活環境動植物）に対する影響に関する論文数¹⁾</u>	
<u>環境動態に関する論文数¹⁾</u>	

¹⁾ 複数のデータベースを用いて検索した結果を統合した場合に
重複した論文数を除いた数

Web of Science (Core Collection)の分類フィールドを用いて検索した場合は、下記様式例を参考にしてまとめる。

(様式例 4-3) Web of Science (Core Collection)で検索した結果のまとめ

<u>データベース名</u>	<u>Web of Science (Core Collection)</u>
<u>検索日</u>	<u>2021/10/1</u>
<u>検索対象期間</u>	<u>2010/10/1 から 2024/9/30 まで</u>
<u>検索に用いた</u>	<u>① AND ② AND ③</u>

キーワード	①	②	③
ヒトに対する 毒性	有効成分で ある微生物	(様式例 2 (2) -3 で定 めた分類フィ ールドをそれ ぞれ記載)	(様式例 2 (3) で定めた キーワードを それぞれ記 載)
標的外生物 (家畜及び生 活環境動植 物) に対する 影響	の種名 (様式例 2 (1) で定め たキーワー ドを記載)		
環境動態			
検索結果			
検索条件 (キ ーワード)	①	① AND ②	① AND ② AND ③
対象とする農 薬名で検索・ 抽出した総論 文数	4,530	NA	NA
ヒトに対する 毒性	NA	1,401	372
標的外生物 (家畜及び生 活環境動植 物) に対する 影響	NA	542	130

環境動態	NA	805	423
------	----	-----	-----

NA：該当するデータなし

5. 評価の目的と適合しない文献を除外した文献の一覧

(様式例 5)

表〇 文献の一覧

リスト No.	データ要 求 (項目番 号)	ドシ エヘ の掲 載の 有無	著者	出版 年	論文 表題	掲載 誌名、 号、ペ ージ 等	検索 され た小 分野 1)
5-1	II5.4	○	xxx et al.	2015	Infecti vity and Patho genic Potent ial of xxx	xxx, 2, pp.15- 30 doi: xxx	A. 病 原体 及び 病原 性 C. 毒 性 J. 標 的外 生物 への 潜在

								的な 影響

1) キーワード検索の結果、複数の小分野に分類される場合は、
当該小分野を全て記載すること。

6. EFSA 及び USEPA の評価書において文献が引用されている場合は、当該文献を引用した機関、当該文献が引用された評価書名、当該評価書発行年等の情報

(様式例 6)

表〇 EFSA 及び USEPA の評価書に結果が引用されている論文

<u>リスト No.</u>	<u>データ要 求 (項 目番 号)</u>	<u>著者</u>	<u>出版 年</u>	<u>論文 表題</u>	<u>掲載 誌 名、 号、 ペー ジ等</u>	<u>評価 機関</u>	<u>評価 書情 報 (発 行年 等)</u>	<u>備考</u>
8-1	II 5.5	xxx et al.	2012	Inves tigati	xxx, 2, pp.10	EFSA A	2017 RAR pp.5-	反論 提出

				on of the Onco genic Prop erties of xxx throu gh In Vitro Anal ysis	0- 108 doi: xxx		8	(別 添○ を参 照)

別紙4 用語の定義

本通知で用いる用語の定義は以下のとおりとする。

感染性 : 微生物が細胞・組織又は個体としての宿主に侵入し、増殖することのできる性質又はその能力のことをいう。

菌類・混在物 (略)

生残性 : 微生物が、供試動植物において、一定時間後

別紙3 用語の定義

本通知で用いる用語の定義は以下のとおりとする。

感染性 : 微生物が供試動植物又は供試培養細胞に侵入後、増殖し、供試動植物又は供試培養細胞に対して感染性が認められることをいう。

菌類・混在物 (略)

<p>も死滅することなく生存すること又は土壌中等で一定時間後も死滅することなく生存することをいう。</p> <p>代謝物・添加物（略）</p> <p>毒性：<u>微生物が産生する二次代謝物等又は当該微生物の増殖に用いた添加物若しくは混在物が、<u>供試動植物又は供試培養細胞に対して有害な反応を起こすことをいう。</u></u></p> <p>毒素～二次代謝物（略）</p> <p><u>バキュロウイルス</u>：<u>バキュロウイルス科に属し、筒状のヌクレオカプシド及び環状の二本鎖 DNA ゲノムを持つウイルスであって、昆虫に特異的に感染するものをいう。</u></p> <p><u>バクテリオファージ</u>：<u>細菌に特異的に感染するウイルスをいう。</u></p> <p>病原性・元種（略）</p> <p>図 1・図 2 （略）</p>	<p>生残性：<u>微生物が<u>供試動植物に対して感染性を持たないが、当該供試動植物において、一定時間後も死滅することなく生存すること又は土壌中等で一定時間後も死滅することなく生存することをいう。</u></u></p> <p>代謝物・添加物（略）</p> <p>毒性：<u>微生物が<u>供試動植物又は供試培養細胞に対して感染性は持たないが、当該微生物の産生する二次代謝物等又は当該微生物の増殖に用いた添加物又は混在物が<u>当該供試動植物又は当該供試培養細胞に対して有害な反応を起こすことをいう。</u></u></u></p> <p>毒素～二次代謝物（略）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>病原性・元種（略）</p> <p>図 1・図 2 （略）</p>
--	--

附 則

- この通知は、令和 8 年〇月〇日から施行する。
- この通知による改正後の別紙 2 のⅧ及び別紙 3 の規定は、令和 8 年〇月〇日（※注：施行日の半年後の日付け）以降に行われる農薬の登

録申請において提出される資料について適用する。